

4章 中央公園の未来ビジョン

4-1 位置づけと役割

広域・中域・近域ごとの3つの位置付けを設定し
周辺も含めた公園の未来のビジョンを定めます

広域 「地域資源を繋げるネットワークハブ」

本市は首都圏へのアクセス性の高さや山、川、海といった環境資源の豊かさを併せ持っています。様々な魅力的なエリアがある中で、駅から徒歩5分の中心市街地にある中央公園では、**中心市街地から香貫公園や香貫山、沼津港へ向かう動線上に位置しており、それぞれのエリアをつなぐ中心にあります。**

● 沼津市都市計画マスタープランで定める健康・文化・交流ゾーン

関連計画と連携し、再整備を進めます！

● 第2次沼津市都市計画マスタープラン

狩野川を介して、多様な交流が生まれる「健康・文化・交流ゾーン」の形成を目指しています。狩野川の親水地域を仲立ちに中央公園・香貫公園周辺地区が連携した一体的なゾーンを形成する方針となっています。

● 沼津市中心市街地まちづくり戦略

戦略のIVとして、「周辺地域資源との連携」が掲げられています。香貫山、沼津港等の地域資源と中心市街地との回遊性の向上のための公共交通のネットワークの充実や中心市街地と周辺住宅地をつなぐ快適な街路空間の整備が行われます。

中域 「まちなかの玄関口」

中央公園は駅前からの商業と狩野川を挟んだ市役所等の都市機能をつなげ、まちなかの玄関口となっています。

また、現在、香貫公園周辺地区では「総合体育館」の建設を進めており、**スポーツを活かしたまちづくりの視点では中央公園をスポーツのゲートウェイ化を目指します。**

● 沼津市都市計画マスタープランで定める健康・文化・交流ゾーン

関連計画と連携し、再整備を進めます！

● 第2次沼津市都市計画マスタープラン

中央公園では、まちなかで過ごす人々にとって貴重な緑地として、市民協働のまちづくりの観点から民間活力を導入した質の高い空間を創出します。整備にあたっては、市街地と狩野川をつなぐ空間として、狩野川や香貫山の見せ方や、狩野川へのエンタランス機能の導入等に配慮します。

狩野川では、市民の日常的なスポーツレクリエーションの場として、民間活力を導入した有効利用を図ります。また、水辺の親水空間を仲立ちに、交流機能や、賑わいを連携させ、まちの魅力を相乗的に高めます。

近域 「まちなかの機能補完関係」

イベントや子供の遊び場、若者のスポーツや文化の場所としての利活用を促進するため、全ての必要な機能を中央公園で用意するのではなく、**周辺のまちなかの補完関係をつくります。**再整備によって過ぎやすくなった公園と、**飲食店、店舗、周辺の駐車場等との連携を図ることで、まちなかの回遊ネットワークを生み出します。**

中央公園は、現在災害時の避難地とされており、防災倉庫があゆみ橋下に設置されています。再整備後も、継続して避難地として使用するため、**防災倉庫の配置場所も含めた必要な防災機能を検討します。**

● 中心市街地のまちづくりについて

- 沼津市中心市街地まちづくり計画
- 沼津市中心市街地まちづくり戦略
- 調査・分析
 - リノベーションまちづくり「旧国一南エリアビジョン」
 - 旧国一南エリアの潜在的な魅力を読み解き戦略的なブランディングを行うためのビジョンが定められています。
- まちづくりのシナリオ
 - 公共空間再編整備計画
 - 沼津市が取り組む中期までの公共空間再編に関する具体的なアクションプラン
 - 都市空間デザインガイドライン
 - 沼津市と民間が取り組む民間敷地・建物と公共空間を含むまちなみづくりのガイドライン

凡例

- ：店舗
- ：駐車場
- ：川のアクティビティ
- ：スポーツ施設
- ：保育園
- ：沼津市中心市街地まちづくり戦略対象範囲
- ：リノベーションまちづくり「旧国一南エリア」
- ：まちなかのオープンスペース
- ：まちなかの緑

● 沼津市中心市街地まちづくり戦略

まちづくりの4つの戦略が立てられています。戦略Iの「ヒト中心の公共空間の創出」では、(都)沼津駅沼津港線を含む駅前街路において車線数を減らし、歩行者のための空間を充実することを目指しています。

また、戦略IIIの「まちなか居住の促進と市街地環境の向上」の方策として既存ストックを活用した都市機能の導入、駐車場マネジメント等が定められています。

● 第2次沼津市緑の基本計画

第2次沼津市緑の基本計画では、緑地空間の活用に焦点を当てた4つの方針が提示されています。今後より一層の活用を受け止める機能が必要となります。

また、沼津駅周辺地区は緑化重点地区とされており、中央公園では、狩野川の水辺空間の活用や市民・周辺商店街等との連携を推進し、市内外からの集客に繋がるイベント等の機会を創出する等、利活用の促進が定められています。

● リノベーションまちづくり

市内の空き家や空きビル等の民間遊休不動産や利用度の低下した公共施設・公共空間の活用を通じ、新たな人材やコンテンツを呼び込み、「あるものを活かす」発想で、**地域資源を活かしたまちづくりを進めています。**

最も事業集積がすすむ、「旧国一南エリア」ではビジョンが作成されています。今後、**エリア内の遊休している不動産や公共空間の活用により、更なる価値向上を目指します。**

4-2 整備コンセプト

中心市街地に相応しい市民による新しい暮らしの 発信・実験拠点となる公園

本市の中心市街地は市民の生活基盤であり、まちなかでは市民による様々なまちづくり活動が行われています。歴史的には、三枚橋城、沼津城などの城下町としての背景があり、中央公園は沼津城の本丸跡地でもあります。明治期の沼津兵学校の設置などを経て、現在では様々なイベントや狩野川と一体となった利活用、定期的なマーケット等多くの活動が見られます。このように、常に沼津のまちなかをリードしてきた中央公園の価値を把握・最大化し、再整備における基本的な方針とします。

導入すべき機能

機能

1 未来のまちなかの日常を実践し、発信する「拠点」機能を強化します。

沼津城は、城下町の発展を支え、当時の町や人々の暮らしの中心的な機能を果たしました。現在ではイベント開催や「週末の沼津」等まちなかの活用をさらに後押しする、様々なノウハウの実践や人々の関係醸成が行われています。それらをまちに発信する「拠点」機能として引き続き実装していきます。

- イベント活用等に適した環境整備
- 市民やまちに向けて情報を発信する機能
- まちなかの玄関口としての高質な整備



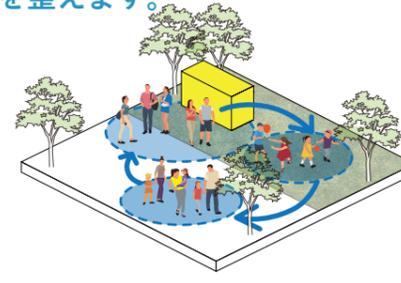
機能

2 学び・実験・チャレンジする活動を支える「ラボ」機能を整えます。

明治初期の最高学府として機能した沼津兵学校は、若者の教育の場としての役割を果たしました。新しい中央公園では市民による自治の上で、個々のチャレンジとして多種多様な利活用を展開します。公園をフィールドに、まちとの関わり方を学ぶことのできる「ラボ」機能が必要です。

- Park-PFIの可能性検討
- 公園の利活用の仕組み・市民自治の在り方の検討
- 公園利用におけるタイムシェアの考え方※
- 中央公園に加え、周辺エリアを含め、利活用に柔軟に対応

※多様な利活用を限られた空間で受け止めるため、時間ごとに利用形態を時間ごとに区分し、公園運営をします。

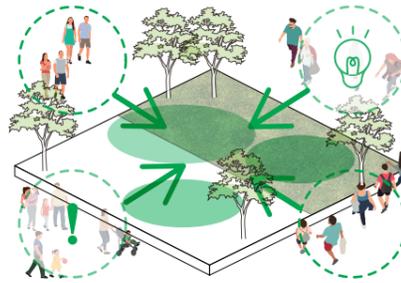


機能

3 集まる・安全安心・開かれている「オープンスペース」機能を強化します。

現在生じているハード面の課題解決を通して、新しい中央公園では、豊かな暮らしに貢献する市民の憩いの場として、緑化空間を強化するとともに、誰にでも開かれ、安全安心な「オープンスペース」機能を強化します。

- トイレ / ベンチ / スロープ / 看板の整備
- 花壇整備や維持管理運営環境の整備（環境美化の促進）
- 災害時の機能検討
- モビリティハブの導入検討

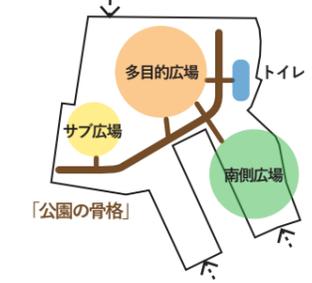


空間デザインの考え方

1 分断された公園の各要素を繋げる「公園の骨格」づくり

「公園の骨格」を新たに設定し、分断されていた公園の各エリアや要素を、骨格を介して繋ぎ直します。空間の分かりやすさとアクセシビリティを高めた質の高い空間とし、まちなか全体をリードする新しい中央公園を実現します。

●骨格により繋がる全体構成

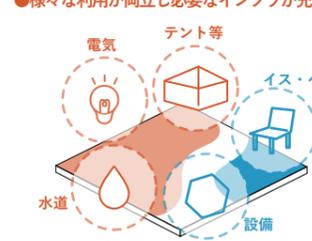


2 日常の多様なシーンとイベント時の使い勝手の両立を実現する空間レイアウト & インフラ整備

新しい中央公園では日常時には多様な種類の場所用意されていることで、多様な使い方のシーンが生まれることを目指します。一方で、使える空間が広がり、イベント時にこれまで以上に使い勝手のよい公園を目指します。

また全ての人々が利用できるユニバーサルデザインの考え方を導入して、安心や安全、快適性や便利さや分かりやすさ、環境衛生などの視点に配慮した空間レイアウトとインフラの整備を行います。

●様々な利用が両立し必要なインフラが充実



3 地域経済を支え、多様な市民による利活用を促す、地元事業者参入の仕組みの創出と場のデザイン

民間事業者の参入による、新たな公園利用目的を創出し、中央公園の活用を促します。事業者にとって魅力的なビジネスモデルとなるよう空間づくりや仕組みづくりを行うことで、地域経済にも寄与する公園を目指します。

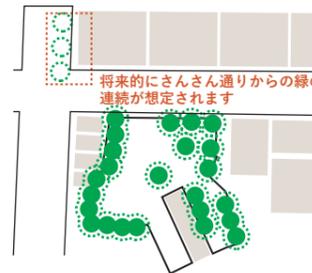
●民間事業者参入による多様な利活用



4 既存樹木を活かし、まちなかにおける貴重な緑地空間を強化

緑の少ない中心市街地において貴重な緑地空間である中央公園では現在、多様な樹木が大きく成長しています。再整備においても現状の緑量を守り、緑地空間を強化します。花壇は、より維持管理しやすいように、参画しやすい仕組みや環境を構築します。

●将来的にさんさん通りからの緑の連続が想定されます



5 周辺に不足している子どもたちの居場所の整備など、多世代が集まる安全安心な空間を創出

様々な世代が集う公園では、安全安心な空間である事が必要不可欠です。現状、あまり利活用がされていない南側広場に訪れる目的をより明確にするため、主に子どもの利用を想定し子どもの居場所の規模や形態の検討・整備をします。子どもの居場所を整えることで、どの世代にも安全安心な空間が生まれます。

●安全安心で過ごしやすい子どもの居場所



